

関東良陵だより

東北大学関東良陵同窓会

平成二十九年度 関東連合総会開催

平成二十九年六月十七日(土)、東京・市ヶ谷私学会館アルカディアにて、関東連合春季総会が開催された。



写真上 関東良陵関東連合会 春季総会にご出席の先生方
最前列右から4人目 会長押田茂實先生 その左ご講演された
荒井他嘉司先生 最後列右端 幹事長岩瀬光先生

当日は関東から二十二人の良陵同窓生が集まり、和やかに開催された。

午後四時三十分から、総会が開始された。本年お亡くなりになった顧問の沼田克雄先生(昭和三十四卒)の追悼の後に、押田会長が「押田体制五年目になり、若い会員の確保が大きな目標となっています。そして、若い研究者の研修や研究のアドバイスができればと思っており、役員の補充や役割分担の変更も含めて今後の課題として、更に継続的に若返り政策を進めてゆきたいと思えます」と挨拶した。

次いで、岩瀬幹事長より新体制五年目の経過報告、坂間会計担当幹事より会計報告、会計監査報告があり、会計報告と予算案が承認された。更に田中幹事より女医部会報告があり、新女医部会担当幹事として飯野ゆき子先生(昭和四十九年卒)が就任したと報告された。

午後五時から、荒井他嘉司先生(昭和三十六年卒、国立災害センター名誉院長)より「3DCCTを用いたLiving anatomy」―肺外科医の歩みと挑戦―との演題で特別講演が行われた。

午後六時から、場所を移して懇親会が行われ、アフターダイナーコンサートとして、川名陽子先生(昭和五十一年卒)のご紹介により、サクソフオーン界のプリンス・丹沢誠二さんとピアノの菅谷詩織さんの演奏に、一同聞き惚れた。

出席会員から、近況報告等も行われ、閉会した。

東北大学関東良陵同窓会 関東連合会

会長 押田茂實(文責)

女医会を振り返って

田中佐喜子

(昭和四十三年卒)

本会幹事女医部会担当

長陵同窓会関東支部女子部会が発足したのは、平成十年七月十一日のことでした。平成十年二月二十二日女医部会準備会が東京飯田橋の摩天楼大飯店で開催され、期待と不安が交差する中での出発でした。

この日は関東長陵同窓会の若手会も開催されていましたが、出席された男性会員を上回る女性会員が出席され、ますます期待が膨らむのを覚えたものです。この会の発足に当たっては当時の神津康雄支部長、信田重光幹事長の熱い思い入れとご指導があり誕生した次第です。



田中佐喜子先生

両先生は旧弊の帝国時代の殻を打破し、他に先駆け、女子学生の入学を認めたのは東北大学が初めてであり、その下部組織に女医会が生まれたのは、極めて意義深いと常々口にしておられました。そのような状況下で女医会は交友を通じ、連帯を深める場となり、また新たに巣立つ女性会員に対し女医部会は微力ながらもお手伝いが出来ればと願ったの発足でした。

そして年一回ずつ毎年七月の土曜日に女医部会を開催することになりました。第一回目から第六回目まで、故小林啓子先生(S35卒)が会長として主催され、第七回より田中(S43卒)が引き継ぐことになりました。会の初めには講演者より一時間程のご講演をいただき、会食をしながらの親睦会となっております。

ご講演いただいた方々は以下の先生方で、いずれもとても参考になりました。

関東地区に限らず、関心のある先生方は是非ご出席いただき、友好の輪を広げていただければ幸いです。

女医部会でご講演の先生方

第七回 H16・7・3

場所 山の上ホテル

倉田清子先生(S44卒)

「障害児と母親の関係について」

第八回 H17・7・3

場所 JET STREAM

押田翠先生(S42卒)

「高齢者の腰痛及び腰関節痛について」

第九回 H18・7・8

場所 JET STREAM

田沼順子先生(H9卒)

「最近のHIV及びAIDSについて」

第十回 H19・7・7

場所 JET STREAM

能城律子さん(S10年生)

「国際フリードライバ」その他

第十一回 H20・7・26

場所 JET STREAM

鈴木尚子先生(S61卒)

「POP」について

第十二回 H21・7・11

場所 JET STREAM

飯野ゆき子先生(S49卒)

「良くなる難聴と良くならない難聴について」

第十三回 H22・7・10

場所 JET STREAM

渡辺みどりさん(皇室評論家)

「人生の贈り物」

第十四回 東北大震災で中止

第十五回 H24・7・7

場所 日本橋三越

灰田美知子先生(S50卒)

「慢性咳嗽について」

第十六回 H25・7・20

場所 アルカディア市ヶ谷

堀川玲子先生(S58卒)

「低出生体重児の病因、成長と代謝予後」

第十七回 H26・7・26

場所 アルカディア市ヶ谷

清沢源弘先生(S42卒)

「眼瞼ケイレン、海外診察事情」

第十八回 H27・7・25

場所 アルカディア市ヶ谷

押田茂實先生(S42卒)

「医療事故うらおもて」

第十九回 H28・7・23

場所 アークヒルズクラブ

早川東作先生(S58卒)

「学生のメンタルヘルス」

第二十回 H29・7・22

場所 アルカディア市ヶ谷

岩瀬光先生(S58卒)

「医師が直面する医療事故、医療訴訟とリスク回避」

なお来期よりは、飯野ゆき子先生(S49卒)が女医部会長

となられ、引き続き女医会が開催されることになっております。

沼田克雄先生を偲ぶ

近藤正太郎

(昭和三十三年辛)

麻醉学会の本道を歩まれた先生——ご人徳の深い、優しいお人柄、

六十年来の友 沼田克雄先生が、平成二十九年九月七日に逝去された。八七才と伺えば、大往生と申すべきであろうが、在りし日々が想い出され、寂しさを禁じ得ない。

病因は、数年来の前立腺癌と伺った。(同級生であるが、先輩格でもあり、以下全て「先生」と表現する)

先生は、長野県の北端の飯山市の、歴代続く医家の男子として生まれ、当然ながら医師への道を進むべき処、御父君が夭折されるなど、難事に遭遇されたため、高校卒業後のしばらくは、家計を助けるために、地元の中学校の代用教員を勤められるなど、大変にご苦労された由にて、従つて、同級生の実年齢よりも、三年ほど年長であられた。

つい先日、お通夜のお清めの席上、たまたま隣席に坐られた老婦人から、中学の初期に先生から英語の教育を受けた由を伺った。優しい先生を慕う生徒達は、その後もクラス会の際

には先生をお招きし、都合のつく限り、ご出席を頂いていたと伺った。先生のお人柄が偲ばれる心温まる逸話である。

先生には数年来、良陵関東支部には、私と同様に顧問格としてご参画いただいていた。今考えるとその頃から、お病氣気味であられたのか、役員会や総会へのご出席の機会も、次第に少なくなっておられたのだが、ご自身のお病氣については、我々に語られる事はなかった。

先生は、文字通り温厚な貴公子風の紳士で、学生時代にも、我々若者の輪にそのまま入るのでは無く、笑顔を湛えつつ、外側から見守つて下さる様なお人柄で、誰にでも慕われる存在であつた。

また、先生は四年間に亘る医学教育の専門過程は、殆ど昭和三十三年卒の我々と一緒に過ごされたことと記憶するのだが、卒業を目前にされた頃、軽い肺結核に罹患されて休学を余儀なくされたため、翌三十四年に卒業されている。その為に両年度のクラス会にも、それぞれ正会員として所属され、年次催されるクラス会等にも、努めて出席しておられた。

私共の三十三年度卒のアノーニマ会では、以前には各地に所在する同級生が、それぞれの年度の会を主催市、小旅行等を含む様式のクラス会を催していた。もう、七、八年前にもなるうか、沼田先生ご夫妻が、故郷に近い長野・戸隠での会を主催さ

れた。善光寺詣を含めて、翌日は戸隠の林間をまわり、最後は戸隠そばに終わる、バス旅行の秀逸なコースを企画された。今も鮮明な楽しかった思い出として、皆の記憶に残っている。

先生は医学部卒業後、未だ黎明期にあつたと思われる、麻醉学を志され、我が国の麻醉学界の先達、東京大学の山村秀夫教授の門下生として、入局された。

その辺りの細かい事は存じていないが、呼吸管理や人工呼吸などを研究の命題とされた。昭和四十九(1974)年には、新設の自治医科大学の初代の麻醉科教授としてご就任、更に昭和五十五(1980)年には、横浜市立医科大学に転じられ、次いで昭和六十二(1987)年には、ご出身の教室である最高峰たる東京大学の麻醉学教室に、第三代目の教授として就任されている。傍系の大学の出身者が、東京大学の、しかも臨床医学の教授に就かれるのは、かなり稀な事であり、先生のご業績も然る事ながら、ご人徳の卓越している事が実証される。我々良陵の会員とつても大いなる誇りである。

教授在任間の大きな出来事として、当時の今上陛下、即ち昭和天皇への麻醉の実施が挙げられよう。衆知の如く、昭和天皇は最晩年には膀胱癌を患われ、十二指腸の狭窄によるイレウス症状を呈されていた。ご高齢の陛下の御身体にメスを入れる事の

可否について、宮内庁内でも論議がなされたが、嘔吐を繰り返されるご病状は放置されえず、外科的治療に決され、執刀医として東京大学外科の、森岡恭彦教授に白羽の矢が立てられた。必然的に麻醉医には、沼田教授が従事される事となり、両教授は、事前に宮中に参内して、陛下にご挨拶申し上げ、陛下からもお言葉を賜つたと聞いている。

手術は宮内庁病院で行われ、胃腸吻合による姑息的な手術が意図され、全身麻醉も、硬膜外麻醉を併用した、侵襲を少なくする方策が採られたと聞いている。しかし、両教授のご心労たるや、大変なものであつたと推察される。

過日、先生のご葬儀が行われ、良陵会からも数名が参列した。流石に麻醉学界の本道を歩まれた先生のご葬儀である。立派な祭壇と両側に並ぶ数多くの生花、その中に良陵同窓会関東支部会名の品、更に昭和三十三年および三十四年卒同窓会からの生花も、正面の壇に飾られた。会葬者の人数も多数を数え、沼田先生の人徳の深さを偲ばせる、お別れであつた。

沼田先生のご冥福と、奥様を始めご家族の皆様のご健勝とご多幸をお祈りする次第である。在りし日の沼田克雄先生のご人徳を忍びつつ。

合掌

(本会顧問)

アフターテイナリーコンサート感想

川名陽子(昭和51(1976)年卒)

これまで関東長陵同窓会でコンサートについて色々お世話下さった根本宏先生が亡くなられた後、出演者を選ぶという大役を仰せつかりました。たまには趣向を変えて、肩の凝らないポピュラー音楽、ジャズなどもいいかなと思ひ、若手サックス奏者丹沢誠二さんにお願ひしました。丹沢誠二さんは、そのモデルのようなスタイル、イケメンというこゝとで注目されそうですが、何よりサックスの音色が素晴らしく、高校時代からのお友達というピアノの菅野詩織さんとの息もぴったりでした。アルカディア市ヶ谷の少々くたびれたホンキートンクのピアノのよゆうな音色もかえってスタンダードジャズにちょうど良かったようにすら感じました。実際には弾きにくかったように、嫌な顔ひとつせず演奏して下さい感謝です。

彼の優しい性格を表すような音色とトーク、選曲も私どもの年代に合わせた下さってわかりやすい懐かしいメロディ「枯れ葉」から始まるメドレーではフランス、スペインへとかの間のヨーロッパ旅行を楽しみました。日本の曲に戻って、仙台上にちなんだ『荒城の月』ジャズアレンジ版も初めてでしたが、心に残る演奏でした。参会の皆様もゆつくり楽しんでくださったのではないのでしょうか。推薦者として初めての仕事が無事に終わり、ほっと胸をなでおろしております。



素晴らしい演奏をご披露いただいた、サクソス丹沢誠二さんとピアノ菅野詩織さん

演奏者からも暖かい雰囲気の中で吹かせて頂きよかったですとメッセージが届いております。サクソスは人の声と似ている楽器だと言われていますが、歌心がないとできない楽器です。丹沢さんはこの後ミュージカル出演などでお忙しい予定だそうですね。次ほどのような出会いがあるか？お楽しみに。関東長陵同窓会が盛り上がるように少しでもお手伝いできればと思っております。諸先輩方、後輩の皆様、これからも宜しくお願ひ申し上げます。

追悼 小林啓子先生

小林啓子先生(逝去(平成二十九年六月九日)の報を、ご主人から知らされても未だに私の心の中で納得がゆかず、お別れの言葉を述べる事がなかなかできませんでした。先生と初めてお会いしたのは根本先生に勧められて参加した関東長陵会の席でした。神津先生をはじめ東北大OBの先輩方がたくさん出席されておられる中で、紅一点輝いておられたことを思い出します。

そして、その会で神津先生、信田先生のご指導のもと「関東長陵同窓会女医部会」が平成十年に発足し、初代会長に小林先生が任命されました。第六回まで小林先生が女医会を主催され、たくさんの方々の先生方と親睦を図って下さり、今日まで(二十回)続いております。先生に感謝致すとともにこの会が新たに巣立つ女性医師の方々にも力を添えるよう努力したいと思ひます。これまで本当に有難うございました。

本会幹事女医部会長 田中佐喜子

第二十四回女医部会の報告

平成十年七月十一日に第一回目を開催した女医部会も今年で二十周年目を迎え、今年七月二十二日に私学大会館アルカディア市ヶ谷で開催されました。

猛暑の中、十四名の先生方にお集まりいただき、東北大五十九年卒の岩瀬光先生より「医師が直面する医療事故、医療訴訟とリスク回避」について講演いただきました。現在の医療過誤では5〜6割が医師側

の勝訴になっているが、その理由として①医療紛争増加の背景にはコミュニケーション不足、②医療の過信、③医療に対する社会的不信、④医療の高度化による医療事故、⑤権利意識が強くなる等の事情があるとの事でした。その為医療紛争を防止するために、①コミュニケーションをよくすること、②医療水準を保つように努力すること、③カルテに記入することが必要事項になると話され、参加者一同、肝に銘じたものでした。

- (参加者) 飯野正光(S51卒) 飯野ゆき子(S49卒) 岩瀬光(S59卒) 押田茂實(S42卒) 押田翠(S47卒) 倉田清子(S44卒) 五味朋子(S47卒) 坂間晃(S43卒) 佐瀬くらら(S33卒) 田中佐喜子(S43卒) 土方清乃(S44卒) 広瀬陽子(S43卒) 矢後文子(S44卒) 八幡則子(S48卒) 敬称略 順不同 (文責 田中佐喜子)

*本年度(平成二十九年)年会費 三千円を同封の振込み用紙により、ご納入をお願いします。

東北大学長陵同窓会
関東連合会 東京支部
〒247-0072
鎌倉市岡本二二二-一七〇四
TEL & FAX
〇四六七(四五) 〇二八七
「関東長陵だより」第四十四号
平成二十九年十一月六日発行